

カテゴリー：魅力発信（観光・文化・シティセールス）

プロジェクト名：誰にも優しい滞在環境の整備

2018年12月20日

オリンピック・パラリンピック準備局

「多言語対応・ICT化推進フォーラム」を開催

12月20日（木）、有楽町インフォス（千代田区）において、「多言語対応・ICT化推進フォーラム」が開催され、小池知事が出席しました。

このフォーラムは、自治体や民間団体などが、東京2020大会に向けた多言語対応の先進的な取組及び多言語対応に有用なICTの情報を広く共有・発信し、今後の取組を一層推進していくことを目的に開催されました。

知事は、「東京を訪れる1,300万人を超える外国人旅行者の方々に、快適に東京で過ごしてもらうため、多言語で自由にやり取りができるようサポートするのが、ICTの最新のテクノロジーである。」と述べ、50言語以上に対応できる小型の通訳機を紹介しました。

また、知事は、「日本語が話せない人だけでなく、さまざまな障害がある人たちにとっていい。東京2020大会の都市ボランティアにも最新の通訳機を持ってもらうことにより、あらゆる国からのお客さまに対応できるようにする。」「災害の際、外国人には情報が伝わりにくく、不安を感じる方が多い、その際、ICTを使い、多言語で翻訳してくれる機械があると安心できる。」「言葉の壁を超え、障害の壁を超えることを可能にし、『多言語社会 東京』を目指したい。」と述べました。

その後、タレントのセイン・カミュ氏による「外国人の生の声！これから取り組んで欲しい多言語対応」をテーマとした基調講演や、「小売業の多言語対応～ガイドラインの活用と先進事例～」をテーマとしたパネルディスカッションが行われたほか、観光・サービス、小売、交通、安心・安全に関するセミナーなどが開催されました。また、会場内には、多言語音声通訳機や多言語翻訳アプリなど、ICTの最新技術を活用した機器が展示されました。

（来場者数：約900名）



小池知事による挨拶



小池知事の会場内視察

（お問い合わせ）

オリンピック・パラリンピック準備局総務部 電話 03-5388-2169